



株主のみなさまへ

第116期 中間報告書

平成29年 4月1日～平成29年 9月30日



子どもたちに誇れるしごとを。

SHIMIZU CORPORATION
清水建設

目次

(頁)	
1	株主のみなさまへ
	上半期事業状況
2	決算ハイライト
3	事業の概況（連結及び当社単体）
	経営方針／会社情報
5	経営方針と重点施策
6	会社概況／株式の状況
	財務諸表
7	連結
9	当社単体
	〔ご参考〕
11	トピックス
15	シミズのものづくり
17	株主情報

株主のみなさまへ



会長 宮本 洋一



社長 井上 和幸

株主の皆様には、平素より格別のご支援を賜り厚く御礼申しあげます。
第116期（平成29年4月1日から平成30年3月31日まで）上半期の、
当社グループの業績及び事業活動の概況についてご報告申しあげます。
株主の皆様におかれましては、今後ともなにとぞ相変りませぬご支援
ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成29年12月

取締役会長

宮本 洋一

取締役社長

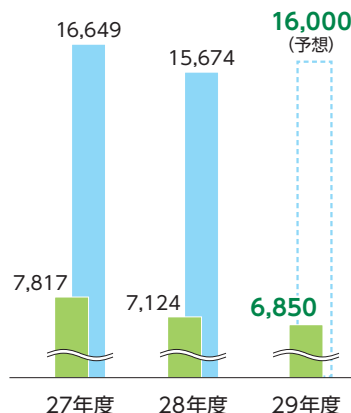
井上 和幸

決算ハイライト

連結売上高

6,850億円

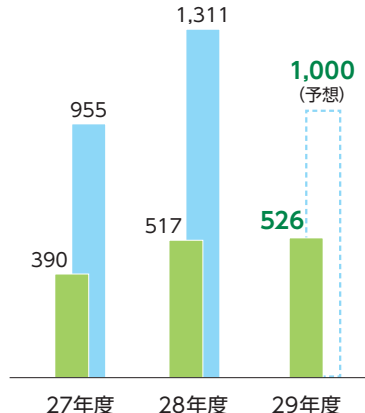
前年同期比△3.8%



連結経常利益

526億円

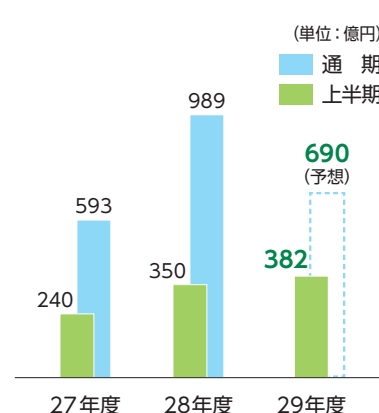
前年同期比+1.7%



連結当期純利益※

382億円

前年同期比+9.1%



※連結損益計算書上の「親会社株主に帰属する当期純利益」

当上半期の日本経済は、企業収益や雇用・所得環境の着実な改善を背景に、設備投資は持ち直し、個人消費も増加基調をたどるなど、緩やかな回復傾向が続きました。

建設業界においては、官公庁工事・民間工事ともに堅調に推移し、安定した受注環境が継続しました。

当社グループの当上半期の売上高は、完成工事高の減少から、前年同期に比べ3.8%減少し6,850億円となりました。

利益については、完成工事高の減少により完成工事総利益が減少したものの、開発物件の売却による開発事業

等総利益の増加などから、経常利益は前年同期に比べ1.7%増加し526億円、純利益は保有株式の売却益を特別利益に計上したことなどから、9.1%増加し382億円となりました。

なお、中間配当金は、1株につき普通配当金7円に特別配当金3円を加えた10円といたしました。

また、連結有利子負債の残高は、前期末に比べ37億円増加し3,437億円となりました。

事業の概況 (連結及び当社単体)

連 結

当上半期の事業別連結業績

売 上 高	6,850億円	前年同期比 △ 3.8%
うち 建設事業	6,014億円	△ 7.6%
開発事業等	835億円	+ 35.8%
売上総利益	881億円	+ 0.3%
うち 建設事業	776億円	△ 2.0%
開発事業等	105億円	+ 21.6%
経 常 利 益	526億円	+ 1.7%
当期純利益	382億円	+ 9.1%
有利子負債残高	3,437億円	29年3月末比 + 37億円

通期の連結業績見通し

売 上 高	1兆6,000億円	前 期 比 + 2.1%
経 常 利 益	1,000億円	△ 23.8%
当期純利益	690億円	△ 30.3%
有利子負債残高	3,500億円以内	29年3月末比 + 99億円

1株当たり配当金

中間配当金	期末配当金 (予定)	年間配当金 (予定)
10円 (うち特別配当金3円)	10円 (うち特別配当金3円)	20円 (うち特別配当金6円)

■建設事業

売上高は、前年同期に比べ7.6%減少し6,014億円となりました。
利益については、利益率は改善したものの、売上高が減少したこと
から、2.0%減少し776億円となりました。

主要な連結子会社

日本ファブテック(株) 第一設備工業(株) (株)シミズ・ビルライフケア
シミズ・ノースアメリカ LLC 清水建設 (中国) 有限公司

■開発事業等

売上高は、大型開発物件の売却などから、前年同期に比べ35.8%
増加し835億円、利益は、21.6%増加し105億円となりました。

主要な連結子会社

清水総合開発(株) (株)ミルックス (株)エスシー・マシーナリ シミズ・ファイナンス(株)
多摩医療 PFI (株) シミズ・インベストメント (アジア) 社

■通期の業績見通し

下半期の日本経済は、雇用・所得環境の改善が続く中で、各種
政策の効果もあって、緩やかに回復していくことが期待されますが、
海外情勢の不確実性による景気変動の影響に留意する必要があります。

建設業界においては、労務需給のひっ迫や原材料価格の上昇が
懸念されますが、公共投資は堅調に推移することが見込まれており、
首都圏を中心に民間建設投資の動きも依然活発であるため、受注環境
は底堅く推移するものと考えております。

このような状況のもと、平成29年度通期の連結業績は、売上高1兆
6,000億円(前期比+2.1%)、経常利益1,000億円(前期比△23.8%)、
当期純利益690億円(前期比△30.3%)を見込んでおります。

なお、期末配当金につきましては、1株につき普通配当金7円に
特別配当金3円を加えた10円を予定しております。これにより、
中間配当金を加えた年間配当金は、1株につき20円を予定しており
ます。

また、連結有利子負債の期末残高は3,500億円以内(前期末比+99
億円)を見込んでおります。

当社単体

当社単体の受注（契約）高

当上半期実績	7,228億円	前年同期比 + 10.8%
通期見通し	1兆4,550億円	前期比 △ 2.0%

当上半期の事業別当社単体業績

売上高	5,696億円	前年同期比 △ 4.8%
うち 建設事業	5,366億円	△ 7.7%
開発事業等	330億円	+ 89.6%
売上総利益	760億円	+ 3.3%
うち 建設事業	681億円	△ 2.8%
開発事業等	79億円	+ 126.0%
経常利益	506億円	+ 5.9%
当期純利益	401億円	+ 21.9%
有利子負債残高	2,508億円	29年3月末比 + 34億円

通期の当社単体業績見通し

売上高	1兆3,150億円	前期比 + 1.8%
経常利益	900億円	△ 21.7%
当期純利益	660億円	△ 23.3%
有利子負債残高	2,500億円以内	29年3月末比 + 25億円

■受注（契約）高

受注（契約）高は、前年同期に比べ10.8%増加し7,228億円となりました。その内訳は、建設事業95%、開発事業等5%です。

建設事業受注高は、海外工事が大幅に増加したことから、前年同期に比べ7.6%増加し6,859億円となりました。

また、開発事業等の契約高は、前年同期に比べ152.9%増加し368億円となりました。

■売上高

売上高については、前年同期に比べ4.8%減少し5,696億円となりました。その内訳は、建設事業94%、開発事業等6%です。

完成工事高は、前年同期に比べ7.7%減少し5,366億円となりました。

また、開発事業等売上高は、前年同期に比べ89.6%増加し330億円となりました。

■利益

利益については、完成工事高の減少により完成工事総利益が減少したものの、開発事業等利益の増加などから、経常利益は前年同期に比べ5.9%増加し506億円、純利益は401億円となりました。

なお、有利子負債の残高は、前期末に比べ34億円増加し2,508億円となりました。

主な受注工事

建築工事	武蔵小金井駅南口第2地区市街地再開発組合	武蔵小金井駅南口第2地区第一種市街地再開発事業施設建築物新築工事
	シンガポール共和国政府	シンガポール国立がんセンター
	東京二十三区清掃一部事務組合	目黒清掃工場建替工事
土木工事	環境省	平成29年度中間貯蔵（大熊2工区）土壌貯蔵施設等工事
	独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構	北海道新幹線、渡島トンネル（上二股）

主な完成工事

建築工事	府中駅南口第一地区市街地再開発組合	府中駅南口第一地区第一種市街地再開発事業に係る施設建築物新築工事
	東急不動産株式会社	OCEAN GATE MINATO MIRAI 新築工事
	松戸市	（仮称）松戸市立千駄堀新病院建設事業
	シンガポール・ポスト社	シンガポール・ポスト・センター新築工事
土木工事	大野城市乙金第二土地区画整理組合	乙金第二造成工事

経営方針と重点施策

当社グループは、毎期「経営3ヶ年計画」をローリング方式で策定し、グループ全体の収益力の向上に努めています。

『経営3ヶ年計画（平成29～31年度）』（要旨）

経 営 方 針

「環境変化に迅速・果敢に対応し、建設事業の進化と収益基盤の多様化を推進するとともに、経営基盤の強化と働き方改革を図り、シミズグループの持続的成長を実現する」

重 点 施 策

1. 品質・安全・工程管理の再徹底

- ・ものづくりの基本に立ち返る管理体制の再徹底
- ・ものづくりの技と心を兼ね備えた人財の育成

2. 建設事業の競争力・収益力強化及び生産性向上

- ・事業量の確保及び受注利益率の向上
- ・確実な生産体制の構築及び生産性向上の推進
- ・建設業の担い手確保に向けた諸施策の実践

3. 労働環境改善及びダイバーシティ経営推進

- ・ワーク・ライフ・バランスの実現
- ・ダイバーシティ経営の着実な推進

4. 国内建設事業に次ぐ、新たな収益源の構築

- ・関係部門の密接な連携によるグローバル事業の推進
- ・ストックマネジメント事業の戦略的強化
- ・環境・エネルギーを軸とするサステナビリティ分野の事業化
- ・将来に向けた戦略的な事業投資

5. C S R 経営の推進及びコンプライアンス経営の実践

- ・「攻め」と「守り」の環境経営の推進
- ・事業活動と連動したC S R 経営の推進
- ・実効あるコーポレートガバナンスの確立

6. 災害発生時の体制整備による、安全・安心社会の実現

- ・震災・自然災害・テロ等、BCP対策の推進
- ・インフラや施設に関する安全安心技術の開発推進

平成29年度を初年度とする「経営3ヶ年計画」では、国内建設事業を主な収益源の柱としながらも、新たな事業領域にも経営基盤を確立していくための施策を打ち出す内容となっております。

以上のような取組みを通じ、コーポレート・メッセージ「子どもたちに誇れるしごとを。」に込めた想いを、役員・従業員全員が日常の諸活動の中で実践し、震災復興、日本経済の成長に寄与すべく、シミズグループ・トータルでの企業価値の向上を図っていく所存です。



シンガポール保健省から総合評価方式で受注した、がん治療専門の外来病院「シンガポール国立がんセンター」(完成予想図)



当社が設計から調達、建設までを一括で受注した日本最大規模の風力発電施設「秋田湯上ウインドファーム」(完成予想図)

会社概況／株式の状況

(平成29年9月30日現在)

創 業 文化元年(1804年)
資 本 金 743億円
売 上 高 1兆2,915億円(平成29年3月期(単体))
代 表 者 取締役社長 井上 和幸
従業員数 10,358名(単体)

■主要な営業所等

本 店 東京都中央区京橋二丁目16番1号
北 海 道 支 店(札幌市) 神 戸 支 店(神戸市)
東 北 支 店(仙台市) 四 国 支 店(高松市)
北 陸 支 店(金沢市) 広 島 支 店(広島市)
関 東 支 店(さいたま市) 九 州 支 店(福岡市)
東 京 支 店(東京都中央区) 土 木 東 京 支 店(東京都中央区)
横 浜 支 店(横浜市) 国 際 支 店(シンガポール)
千 葉 支 店(千葉市) 投 資 開 発 本 部(東京都中央区)
名 古 屋 支 店(名古屋市) エンジニアリング事業本部(東京都中央区)
関 西 支 店(大阪市) 技 術 研 究 所(東京都江東区)

■海外営業網

大 連	ホーチミン	ダッカ	ヴロツワフ
上 海	バンコク	バンガロール	プラハ
広 州	ビエンチャン	グルガオン	ロンドン
香 港	ヤンゴン	タシセント	ニューヨーク
台 北	クアラルンプール	ドバイ	アトランタ
マニラ	シンガポール	イスタンブール	ケレタロ
ハノイ	ジャカルタ	ルサカ	

■株式の状況

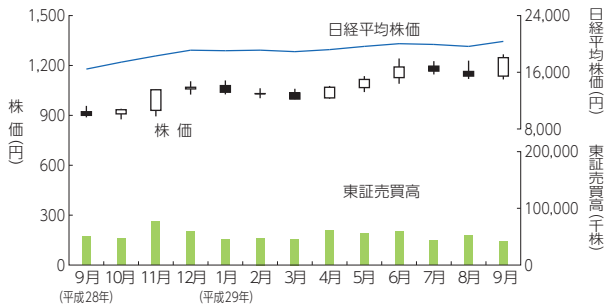
発行可能株式総数 1,500,000,000株
発行済株式の総数 788,514,613株
株主数 40,189名

■大株主の状況

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
清水地所株式会社	60,430	7.7
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	48,910	6.2
社会福祉法人清水基金	38,195	4.9
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	33,070	4.2
一般財団法人住総研	17,420	2.2
清水建設持株会社	17,223	2.2
株式会社みずほ銀行	16,197	2.1
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	12,942	1.6
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)	12,913	1.6
第一生命保険株式会社	10,564	1.3

※持株比率は、自己株式(2,619千株)を控除して計算しております。

■株価及び売買高の推移



連結貸借対照表 (要旨)

(単位：億円)

科 目	当上半期末 平成29年9月30日現在	前期末 平成29年3月31日現在	増 減
(資産の部)			
流動資産	10,047	10,590	△ 543
現金預金	1,153	1,728	△ 574
受取手形・完成工事未収入金等	3,856	4,490	△ 634
有価証券	1,841	1,430	411
販売用不動産	215	394	△ 179
未成工事支出金	1,006	768	238
開発事業支出金	320	296	24
PFI事業等たな卸資産	500	520	△ 19
その他	1,161	971	190
貸倒引当金	△ 7	△ 8	0
固定資産	6,518	6,291	227
有形固定資産	2,499	2,466	32
無形固定資産	48	45	2
投資その他の資産	3,970	3,778	192
投資有価証券	3,801	3,599	202
その他	190	201	△ 10
貸倒引当金	△ 21	△ 22	0
資産合計	16,565	16,881	△ 316

(資産の部)

受取手形・完成工事未収入金等の減少などにより、前期末に比べ316億円減少しました。

科 目	当上半期末 平成29年9月30日現在	前期末 平成29年3月31日現在	増 減
(負債の部)			
流動負債	7,138	7,908	△ 770
支払手形・工事未払金等	3,300	3,903	△ 603
短期借入金	1,196	1,211	△ 15
1年内返済予定のノンリコース借入金	62	71	△ 9
1年内償還予定の社債	150	150	-
1年内償還予定のノンリコース社債	8	6	2
未払法人税等	203	212	△ 9
未成工事受入金	1,010	935	75
完成工事補償引当金	28	30	△ 1
工事損失引当金	123	130	△ 6
役員賞与引当金	-	2	△ 2
その他	1,053	1,253	△ 199
固定負債	3,318	3,204	113
社債	600	500	100
転換社債型新株予約権付社債	300	301	△ 0
ノンリコース社債	145	149	△ 4
長期借入金	592	646	△ 53
ノンリコース借入金	381	363	18
退職給付に係る負債	592	599	△ 6
その他	705	645	59
負債合計	10,456	11,113	△ 656
(純資産の部)			
株主資本	4,438	4,220	218
資本金	743	743	-
資本剰余金	431	431	0
利益剰余金	3,279	3,061	218
自己株式	△ 16	△ 15	△ 0
その他の包括利益累計額	1,619	1,497	122
非支配株主持分	51	51	0
純資産合計	6,109	5,768	340
負債純資産合計	16,565	16,881	△ 316

1株当たり純資産額 772.16円 728.78円

(負債の部)

支払手形・工事未払金等の減少などにより、前期末に比べ656億円減少しました。

(純資産の部)

親会社株主に帰属する当期純利益の計上に伴う利益剰余金の増加に加え、株式相場の上昇に伴うその他有価証券評価差額金（その他の包括利益累計額）の増加などにより、前期末に比べ340億円増加しました。

備考：金額の億円未満は、切捨て表示しております。

連結損益計算書 (要旨)

(単位：億円)

科 目	当上半期 平成29年4月1日から 平成29年9月30日まで	前年同期 平成28年4月1日から 平成28年9月30日まで	前年同期比
売上高	6,850	7,124	△ 3.8%
完成工事高	6,014	6,508	△ 7.6%
開発事業等売上高	835	615	35.8%
売上原価	5,968	6,245	
完成工事原価	5,238	5,716	
開発事業等売上原価	730	528	
売上総利益	881	879	0.3%
完成工事総利益	776	792	△ 2.0%
開発事業等総利益	105	86	21.6%
販売費及び一般管理費	381	361	
営業利益	499	517	△ 3.4%
営業外収益	46	43	
営業外費用	20	42	
経常利益	526	517	1.7%
特別利益	61	3	
特別損失	0	1	
税金等調整前当期純利益	587	520	13.0%
法人税等	205	169	
当期純利益	382	350	
非支配株主に帰属する当期純損失 (△)	△ 0	△ 0	
親会社株主に帰属する当期純利益	382	350	9.1%

1株当たり当期純利益 48.76円 44.68円

売上高は、完成工事高の減少から、前年同期に比べ3.8%減少し6,850億円となりました。

経常利益は、完成工事高の減少により完成工事総利益が減少したものの、開発物件の売却による開発事業等総利益の増加などから、前年同期に比べ1.7%増加し526億円となり、親会社株主に帰属する当期純利益は、保有株式の売却益を特別利益に計上したことなどから9.1%増加し382億円となりました。

連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

(単位：億円)

科 目	当上半期 平成29年4月1日から 平成29年9月30日まで	前年同期 平成28年4月1日から 平成28年9月30日まで	増 減
現金及び現金同等物の期首残高	3,158	2,741	416
営業活動によるキャッシュ・フロー	37	855	△ 818
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 66	△ 62	△ 4
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 128	△ 301	172
その他の増減額	△ 6	△ 54	47
現金及び現金同等物の増減額	△ 164	436	△ 601
現金及び現金同等物の上半期末残高	2,993	3,178	△ 185

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前当期純利益587億円の計上などによる資金増加と仕入債務の減少などによる資金減少があり、結果として37億円の資金増加となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、賃貸事業用資産の取得などにより66億円の資金減少となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払などにより128億円の資金減少となりました。

この結果、現金及び現金同等物の当上半期末の残高は、前期末に比べ164億円減少し2,993億円となりました。

当社単体

貸借対照表 (要旨)

(単位：億円)

科 目	当上半期末 平成29年9月30日現在	前期末 平成29年3月31日現在	増 減
(資産の部)			
流動資産	7,989	8,354	△ 364
現金預金	580	1,110	△ 529
受取手形	274	327	△ 53
完成工事未収入金	3,209	3,750	△ 541
有価証券	1,840	1,430	410
販売用不動産	65	147	△ 81
未成工事支出金	946	716	230
その他	1,080	879	200
貸倒引当金	△ 7	△ 7	0
固定資産	6,137	5,992	145
有形固定資産	2,045	2,023	21
無形固定資産	35	32	3
投資その他の資産	4,056	3,935	120
投資有価証券	3,926	3,802	124
その他	152	156	△ 4
貸倒引当金	△ 22	△ 22	0
資産合計	14,127	14,346	△ 219

科 目	当上半期末 平成29年9月30日現在	前期末 平成29年3月31日現在	増 減
(負債の部)			
流動負債	6,356	7,042	△ 686
支払手形	907	1,079	△ 171
工事未払金	1,980	2,338	△ 357
短期借入金	903	918	△ 15
1年内償還予定の社債	150	150	-
未払法人税等	184	191	△ 6
未成工事受入金	780	773	7
完成工事補償引当金	27	28	△ 1
工事損失引当金	119	123	△ 4
役員賞与引当金	-	2	△ 2
その他	1,302	1,437	△ 134
固定負債	2,598	2,485	112
社債	600	500	100
転換社債型新株予約権付社債	300	301	△ 0
長期借入金	554	604	△ 50
退職給付引当金	434	429	4
その他	708	649	58
負債合計	8,954	9,528	△ 573
(純資産の部)			
株主資本	3,481	3,244	237
資本金	743	743	-
資本剰余金	431	431	0
利益剰余金	2,318	2,080	237
自己株式	△ 11	△ 11	△ 0
評価・換算差額等	1,691	1,574	117
純資産合計	5,172	4,818	354
負債純資産合計	14,127	14,346	△ 219
1株当たり純資産額	658.22円	613.15円	

備考：金額の億円未満は、切捨て表示しております。

損益計算書 (要旨)

(単位：億円)

科 目	当上半期 平成29年4月1日から 平成29年9月30日まで	前年同期 平成28年4月1日から 平成28年9月30日まで	前年同期比
売上高	5,696	5,986	△ 4.8%
完成工事高	5,366	5,811	△ 7.7%
開発事業等売上高	330	174	89.6%
売上原価	4,936	5,250	
完成工事原価	4,684	5,110	
開発事業等売上原価	251	139	
売上総利益	760	735	3.3%
完成工事総利益	681	700	△ 2.8%
開発事業等総利益	79	34	126.0%
販売費及び一般管理費	300	284	
営業利益	459	451	1.8%
営業外収益	63	65	
営業外費用	16	38	
経常利益	506	478	5.9%
特別利益	83	2	
特別損失	0	1	
税引前当期純利益	590	479	23.0%
法人税等	188	150	
当期純利益	401	329	21.9%
1株当たり当期純利益	51.10円	41.92円	

■中間配当について

- 株主に対する配当財産の割当てに関する事項及びその総額
当社普通株式1株につき金10円（うち特別配当金3円）
総額7,858百万円
- 剰余金の配当が効力を生じる日
平成29年12月1日

受注(契約)高・売上高・繰越高の内訳

(単位：億円)

区 分	前期繰越高	当上半期 受注(契約)高	当上半期 売上高	次期繰越高
建設事業				
建 築	10,480	5,526	4,131	11,875
土 木	4,879	1,332	1,234	4,977
計	15,360	6,859	5,366	16,853
開発事業等	406	368	330	444
合 計	15,767	7,228	5,696	17,298

建設事業受注高の内訳

(単位：億円)

区 分	当上半期 平成29年4月1日から 平成29年9月30日まで	前年同期 平成28年4月1日から 平成28年9月30日まで	増 減
建 築			
国 内	4,599	4,701	△ 101
海 外	927	64	862
計	5,526	4,765	761
土 木			
国 内	1,298	1,646	△ 347
海 外	34	△ 37	71
計	1,332	1,609	△ 276
合 計			
国 内	5,898	6,347	△ 449
海 外	961	27	934
計	6,859	6,375	484

〔ご参考〕

トピックス

世界平和への祈りを未来へつなぐ

重要文化財（建造物）世界平和記念聖堂の保存修理工事を施工中

世界平和記念聖堂（広島市）は、戦前から同地でキリスト教の布教活動が続け、自らも被爆したドイツ出身のフーゴ・ラサール（えのみや まきび愛宮真備）神父の発案で、原爆犠牲者の追悼と慰霊のため、また世界平和のシンボルとして建設されました。設計は、日本を代表する建築家・村野藤吾氏によるもの。2006年7月、戦後の建築物としては初めて国重要文化財に指定されました。

当社による建設が着工したのは、終戦後の1950年10月。しかし、朝鮮戦争の影響で物価が高騰、資材不足に加え資金にも行き詰まり、工事が幾度となく中断しました。このような中、当時の当社社長・清水康雄の「損得を抜きにしてやろう。この仕事は名誉

なのだ」という言葉が現場を支え、数々の苦難を乗り越えて4年後の1954年8月、多くの祈りが込められた聖堂が完成しました。



正面外観。
中世の教会を思わせる
荘厳な聖堂と高さ45mの
鐘塔が印象的

それから63年経った現在、聖堂では大規模な保存修理工事が行われています。当社により、これまでに3度の維持保存工事が行われてきましたが、今回の工事はこれまでで最も大規模なもので、内外装の補修のほか、聖堂及び鐘塔の耐震補強工事が行われます。

世界平和への祈りを未来へつなぐために、来年の12月の竣工を目指し、特殊で難しい保存修理工事に現場一丸となって取り組んでいます。



慎重に取り外されるステンドグラス。専門工房で修復された後、再び取り付けられる。保存修理工事ならではの作業



足場が組み上がった聖堂内部

施工中のダム建設現場を撮る

「ダムパシャ」——カメラガールズとのタイアップで土木の魅力を発信

一般の方々にも土木事業が日々の暮らしを支えていることを知っていただきたいという想いから、2015年度より土木をテーマにした広告を制作し展開しています。その一環として、今年度は「ダムパシャ」と名付けた広告活動を展開。これは、日本最大の女性写真サークル「カメラガールズ」に、現在施工中のハッ場ダム（群馬県吾妻郡）の建設現場で写真撮影をしてもらうという企画で、彼女たちの視点を通して、現場の魅力や土木事業の重要性を伝えようという試みです。

カメラガールズの皆さんの写真や撮影を通じて感じたことを、新聞広告をはじめ、Webページの特設サイトやスペシャルムービーの公開、東京メトロの車内ディスプレイでの映像展開など、様々なメディアにより複合的に紹介しました。今後も土木事業の魅力を伝えるため、積極的に情報発信を行っていきます。



スペシャルサイト
<https://www.shimz.co.jp/dampasha/>



QRコードを
 スマートフォンで読み取る
 とスペシャル
 サイトにアク
 セスできます。



読売新聞に8月3日に掲載された新聞広告

トピックス

生産性向上を目指して

新時代の建築生産システム「シミズ スマート サイト」を構築

建設業の喫緊の課題である生産性向上に向け、AI（人工知能）を搭載した自立型ロボットがBIM※と連携し、人とコラボしながら工事を進める新時代の建築生産システム「シミズ スマート サイト」を開発しました。

「シミズ スマート サイト」を構成する各ロボットは、建物の上部をすっぽり覆う全天候型のカバーの中で、AIやIoTを駆使し、タブレット上のロボット統合管理システムから送信される作業指示に基づいて、自己の所在位置を認識しながら現場内を移動し、施工対象物を認識して自律的に稼働します。稼働状況や作業結果は統合管理システムにリアルタイムに記録・蓄積され、タブレット上でいつでも確認できます。

2018年にはシステム全体を適用した高層ビルの建設工事が始まる予定で、ロボットを適用する工種において70%以上の省人化を目指します。

※BIM：Building Information Modeling

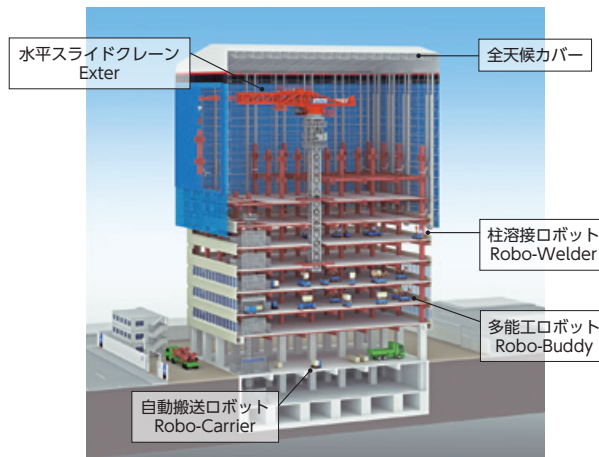
コンピュータで3Dの建築情報モデルを構築し、設計から施工、メンテナンスまでの活動を合理化するツール

「攻めのIT経営銘柄2017」に選定

当社が選定された「攻めのIT経営銘柄2017」は、経済産業省と東京証券取引所が、ITの活用によるビジネスモデル変革等を通じて、新たな価値創出や競争力強化に向けた積極的な取組みを実施している上場企業（31社）を選定・公表したものです。



攻めのIT経営銘柄2017
Competitive IT Strategy Company



「シミズ スマート サイト」の概念図



「Exter」

水平方向に伸縮するブームにより作業半径を自由に調整できる世界初の水平スライドクレーン



「Robo-Welder」

溶接トーチを自在に操る柱溶接ロボット



「Robo-Carrier」

現場に搬入された資材をRobo-Buddyの作業場所まで自動搬送する。このロボットを核にロボット同士が連携して稼働する。



「Robo-Buddy」

天井や床材を2本の腕で巧みに施工する多能工ロボット

人を大切にする企業の実現に向け

ダイバーシティ(多様性) & インクルージョン(包摂)への取り組み

当社は、従業員が多様な個性・価値観を活かし、能力を最大限に発揮できるよう、ダイバーシティとインクルージョンの実現に向け様々な取り組みを進めています。

今年6月には、ゼネコンとしては初めてWE P s 支持声明書に署名。7月には、女性活躍推進のための環境整備に向け、未就学の子を持つ女性従業員を対象とした「ランチミーティングキャラバン2017」を開催し、ワーキングマザーが気軽に情報交換、相談できる環境づくりを支援いたしました。

また、新たに役職となった者への研修では、暗闇の中でお互いコミュニケーションをとり共同作業などを行う「ダイアログ・イン・ザ・ダーク」(一般社団法人ダイアログ・ジャパン・ソサエティ主催)を導入していますが、8月にはその効果を踏まえ、「ダイアログ・イン・サイレンス」(同主催)※に特別協賛いたしました。

社内制度に関しては、今年度よりLGBT(性的マイノリティ)の人が性自認や性的指向などに関する悩みや疑問について相談できる窓口を設置いたしました。

これからも一人ひとりの属性、価値観やライフスタイルなどの「違い」を認め尊重し、受け容れる「インクルーシブ」な職場環境の実現を目指してまいります。



「新・ダイバーシティ経営企業100選」、
「なでしこ銘柄」に
ダブル選定

WE P s (女性のエンパワーメント原則) 支持声明書へ署名

2017年6月、当社は、女性エンパワーメント(能力開発、権限付与等)に自主的に取り組む企業の行動7原則、WE P s 支持声明書に署名しました。これは、2010年3月に国連グローバル・コンパクトと国連女性開発基金が策定したもので、署名している日本企業の中でゼネコンとしては初めての参加です。



WE P s 支持声明書



「ランチミーティングキャラバン2017」の様子。
仕事と育児の両立のための工夫などをディスカッション



「ダイアログ・イン・サイレンス」の様子。
手話通訳により参加者同士が対話

※ダイアログ・イン・サイレンス：
聴覚障がい者のアテンンドのもと、参加者同士が音や声を使わずにコミュニケーションすることにより、言葉の壁を超えた対話を体験するイベント

シミズのものづくり

小名浜マリナブリッジ

いわき市小名浜の港湾地区に、日本の臨港道路では珍しいエクストラードーズド橋※が完成しました。その名は「小名浜マリナブリッジ」。300通近い応募作品の中から命名されました。小名浜の新しいランドマークとして地元の方々から強い期待が寄せられる中、誠意を込めて施工に取り組みました。

■工事概要

所在地：福島県いわき市
発注者：国土交通省東北地方整備局
設計・監理：国土交通省東北地方整備局
工期：2012年3月～2017年3月

※エクストラードーズド橋：

主塔と斜材で主桁を支える大偏心外ケーブル構造の橋梁。桁橋と斜張橋の利点を併せ持ち、景観に優れた橋梁形式とされる。



特徴あるシルエットを持つ小名浜港の新しいランドマーク



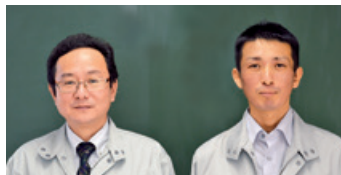
3号ふ頭から見上げた小名浜マリナブリッジ



小名浜マリナブリッジの全景



お客様から



国土交通省東北地方整備局
小名浜港湾事務所 保全課
保全課長 青木 伸之さん(左)
工事品質検査官
市川 栄徳さん(右)

橋梁施工に関して高い技術を持つ御社には、施工中から各所で技術を分かりやすく説明してもらい、また施工上の課題について早め早めに指摘してもらえたことで、安心して工事を進められました。長期にわたる工事でしたが、無事竣工を迎えてほっとしています。橋の両たもとは将来的に公園が整備される予定で、この橋が新しいランドマークとなり、港湾地区がにぎわいであふれてくれることを期待しています。

台船での施工という難工事を、責任を持って完遂

本工事で特に苦労したのは、台船を使って作業をした人工島側の上部工の施工です。コンクリート打設時には、ポンプ車を載せた台船を橋脚下に停留させ、生コン車を載せた2隻の台船をふ頭からピストン輸送し、連続して打設しました。特に冬期は風が強く波が立ち、なかなか所定の位置に台船が留まらず、時には作業を中止せざるを得ないこともありました。

港湾ではあまり例のない橋梁工事でしたが、「責任を持ってつなげます」というお客様への約束どおり、無事竣工を迎えることができました。



工事長 北村 裕さん

総合力でビッグプロジェクトに挑む

当社でも施工実績の少ないエクストラードーズ橋、さらに海上での工事となることから、マリコン及び橋梁の専門工事業者と企業体を組成し、それぞれの専門性を最大限発揮してプロジェクトに取り組みました。総合評価方式の入札に、企業体構成員と本支店技術部、生産計画部が一体となって取り組んだことで、橋脚工事、航路部上部工、閉合部の工事を請け負うことができました。これも、現場で施工に携わる人の安全、質に対する高い意識と、的確なアドバイスがあったからこそだと考えています。



東北支店 営業部長
佐野 真さん

全員の力で無災害完工を果たす

上部工から約3年3ヶ月、工事に携わりました。その中でも監理技術者としての最後の1年は、強風が吹く航路上空での地覆工や、供用中の県道との交差点工事、冬期の舗装工といった特殊な施工環境と厳しい工期の中、いかに無災害完工を果たすかに苦心。言葉を変え、目線を変え、工事がより良い方向に向くよう、毎日自分なりに考え抜いた結果、工事長や企業体職員の方々、現場の作業員の皆さんの助けもあり、全員の力で無災害完工を果たすことができました。



吉田 直樹さん

株主情報

個人株主様向けIRイベント開催のご報告

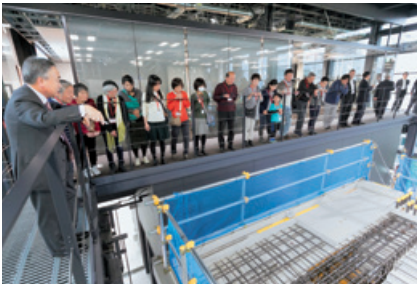
2017年10月29日（日），個人株主様を対象とした「ものづくり研修センター見学会」を開催しました。

同研修センター（東京都江東区木場二丁目15番3号（当社東京木工場敷地内））は，当社が210余年の歴史で培ってきた「ものづくりの“心”と“技”」の伝承を図るため，今年4月にオープンした体験型研修施設です。

当日は，構造躯体の実物大模型や展示物・映像等を通じて，建物ができるまでの過程をご覧いただくとともに，当社が「人材育成」を経営の重要な課題とし，様々な取組みを進めていることをご理解いただきました。

参加された株主様からは「人材づくりを大切にしていることに感銘を受けた」，「建物ができるまでの過程がわかり大変有意義であった」との声を頂戴し，当社及び建設業への理解を深めていただく良い機会となりました。

今後も継続して株主様を対象としたイベントを実施してまいります。



見学会の様子



株主優待品の贈呈について

平成30年3月期の株主優待品は，前回に引き続き，当社東京木工場が製作した木製グッズといたします。

平成30年3月31日現在のご所有株式数に応じて，優待品をご登録の住所にお送りいたします。送付時期は平成30年7月末頃を予定しております。

ご所有株式数	平成30年3月期の優待品
1,000株以上5,000株未満	千支柄コースター（2個）
5,000株以上10,000株未満	ペンメモスタンド
10,000株以上	置き時計



優待品イメージ

株主メモ

事業年度

4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会

6月

基準日

定時株主総会の議決権	3月31日
期末配当金	3月31日
中間配当金	9月30日

株主名簿管理人

特別口座の口座管理機関

三菱UFJ信託銀行株式会社

同 連 絡 先

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

東京都府中市日鋼町1-1

電話 0120-232-711 (通話料無料)

郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

公告掲載方法

電子公告

公告掲載URL (<https://www.shimz.co.jp/>)

ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告を行うことができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

株式に関する各種お手続きについて

- ☐株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種お手続きにつきましては、お取引の証券会社にお問合せください。
- ☐特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行（上記連絡先）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店でもお取次ぎいたします。
- ☐未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

特別口座の株主様へ

「特別口座」は、株券電子化までに株券をほふりへ預託されなかった株主様の権利を保全するため、当社が株主様の名義で、三菱UFJ信託銀行に開設した口座です。

特別口座の株式は各株主様の財産であるものの、特別口座のままでは売買ができず、売買するためには、株主様が証券会社に開設した口座へ「振替」（株数等の記録を移す）手続きが必要になります。速やかにお手続きされることをお勧めいたします。

※振替手数料無料

お問合せ先は、次のとおりです。

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

電話 0120-232-711 (通話料無料)

ウェブサイト <http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

◎「特別口座の株式を証券会社の口座へ振替えたい」とお伝えください。

配当金を郵便局窓口でお受取りの株主様へ

郵便局での配当金のお受取りには、払渡期間があらかじめ定められておりますので、払渡期間内にお受取りください。また、**支払開始日から満3年を経過すると、定款の規定により配当金をお支払いできないことになります。**

安心・確実に配当金をお受取りいただくため、口座受取りの制度をご利用いただくことをお勧めいたします。

口座受取りの制度をご利用いただきますと、配当金をご指定いただきました銀行口座もしくは証券会社の口座で受取ることができるようになります。

お問合せ先は、次のとおりです。

■証券会社に口座をお持ちの株主様

お取引の証券会社

■証券会社に口座をお持ちでない株主様(特別口座の株主様)

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

電話 0120-232-711 (通話料無料)

◎「配当金を口座受取りの方法で受領したい」とお伝えください。

ホームページのご案内



新しくなった当社コーポレートサイトをご覧ください。

<https://www.shimz.co.jp/>



表紙写真
石屋製菓 北広島工場(北海道北広島市)
設計・監理／当社

清水建設株式会社

〒104-8370 東京都中央区京橋二丁目16番1号
TEL 03-3561-1111 (大代表)
<https://www.shimz.co.jp/>

UD FONT

見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォントを採用しています。

